

PEACE BOAT
Since 1982

vol. **02**

【発行第2号】

FIND *yourself*

ピースボート 地球一周の船旅ガイドブック

特集 PEACEFUL DAYS

あなたが“旅”する理由

今日がいつか旅にでる最初の日。



Follow me!

ちょっといいことがいっぱい！
PEACE BOATの旅の様子や
最新イベント情報をSNSで配信中！



🔍 @peaceboat.cruise



🔍 @peaceboat

Connecting

旅を通じた出会い
同じ時代に生きる人たちに

The World

いま、世界の国や地域のことを“知る”だけではない、
「感じる・体験をする」ということの価値が高まっています。

ただ見たいものを見に行くだけの旅行ではなく、
現地に暮らす人びとに出会い、同じものを味わい、語り、同じ空気を感じる旅——。
見聞きすることは、楽しいことばかりではなく、その土地に暮らす人びとが抱える現実など、
予期することのなかった発見をすることでもあります。
同じ時を刻みながら、同じ時代に生きる人たちと出会うことは、旅をする人を変え、これからの生活や仕事、
自身の価値観に大きな影響を与える体験となります。

そんな、「旅に出る」という経験を、ぜひ多くの方に実現してほしいと願い、
この『地球一周の船旅ガイドブック』に、さまざまな方々の体験のインタビューをまとめています。
ご覧いただく内容が、地球を旅するその一歩目になることを願っています。

発起人 Find yourself 編集部



憧れの地を実際にたどる 夢のような旅へ

海でつながる土地と土地の文化は
グラデーションのように移り変わって
いきます。点と点で存在していた憧れの
場所が、一枚の絵のように感じら
れる体験は、飛行機の旅では決して
味わうことができない魅力です。
一生に一度の特別な体験を、
ピースボートクルーズで。

PEACE BOAT
Since 1981

FIND *yourself*

ピースボート 地球一周の船旅ガイドブック
Peace Boat Global Voyages Guidebook
August, 2023 No.02

CONTENTS - 今期の特集

07 Happy Sea Mail

Sri Lanka コロンボ - 日常にある信仰

New Zealand オークランド - サステナブルな日々

Sweden ストックホルム - アートのある生活

特集 PEACEFUL DAYS - あなたが“旅”する理由 -

08 Dragon76 - Artist

Photo: Sebastien Vergne Text: Taga Hideyuki

12 渡部カンコロンゴ清花 - Founder of WELgee

Photo: Ueno Takafumi, WELgee Text: Tanaka Aki

16 渡邊さゆり - Cruise Staff

Photo: Social Good Photography, Inc., Yoshida Yusuke
Text: FIND yourself Editorial Department

20 Dear My Planet - ロカ岬 - Photo & Text = 谷口 巧

23 My Favorite Place - イースター島 (チリ) -

Photo: PEACE BOAT Text: Taga Hideyuki

24 What's Peace Boat? ピースボートってどんな旅?

26 INTERVIEW 「チャンスを楽しむ」を大切に ルイス ロビン 敬

28 PEACE BOAT PEOPLE



表紙の写真

「今日がいつか旅に出る最初の日」——
それは、一枚の写真に心を揺さぶられたり、
誰かの話に共感したり、ふと流れてきた動画に魅せられたり、
どんなことがきっかけになるかはわかりません。
でも、「いつか」とついた“ため息”が、“ときめき”のそれに
変わる体験を重ね、本当に“生きたい”場所を探し出すこと。
そこに在るだけで、心が満たされてピースフルな気持ちになれる場所が、
国境を越えて、海を越えた先にあるかもしれません。

「Find yourself」地球一周の船旅ガイドブック

2023年8月1日

発行＝株式会社ジャパングレイス

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 1-32-13

編集＝NGO ピースボート

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1

制作＝株式会社 明巧

アートディレクション・写真・デザイン＝上野隆文

■ 記事に関するお問い合わせ

MAIL: info@peaceboat.gr.jp

TEL: 03-3363-7561

■ 広告に関するお問い合わせ

MAIL: customer@japangrace.co.jp

TEL: 03-5287-3081

Publisher: Japan Grace Co., Ltd.

Production: Meiko Co., Ltd.

Art Direction, Photo & Design: Ueno Takafumi



「人生の次なるきっかけ」
となる、きらめきを探して

世界一周の船の上は、さまざまな人生
が交差する場所。年齢や性別、国籍、
宗教など、バックグラウンドがまるで違う
誰もが気軽に出会い、快適な旅を送り
ます。その中で生まれる交流が、あなた
の次なる人生に彩りを加えてくれます。
一生に一度の特別な体験を、
ピースボートクルーズで。

PEACE BOAT

Since 1981



Happy Sea Mail

世界から届いた旬の話題



Sri Lanka

ロコボ



▼ウェサックボヤデーの期間中は、寺院のあちこちに長い行列ができる。「タンサラ」といって、個人や団体が食べ物や飲み物を無料で提供し、施しをすることで「徳を積む」という仏教の精神に基づく習慣だ。▼お参りするときは、白い服で行くのがマナーとされている。大人も子どもたちも熱心にお祈りしている姿が印象的だった。

オークランドの宝石と呼ばれる島のブルワリーで休日

オークランドからフェリーで40分、東に約20kmの場所にあるワイヘキ島は、週末に日帰りで気軽に楽しめるプチリゾートのお出かけスポットです。ここワイヘキ島では今、クラフトビールが流行中! ペールエール、ピルスナー、IPAはもちろん、ワイヘキのブルワリーでちょっと変わったものだと「ワサビフレーバー」なんてものも。ブルワリーやワイナリーはレストランを併設していることが多く、天気の良い日は外のテーブルで直産のビールやワインと食事をしたり、スーパーマーケットで買い込んで、ビーチに設置されている無料のBBQコンロで家族や友だちと楽しめます。



New Zealand

オークランド、ワイヘキ島

▼環境先進国のニュージーランド。レンタルサイクルのポートも多い。▼2019年にレジ袋が禁止となり、2023年7月からは野菜や果物を入れる薄いプラスチック袋も対象に拡大された。ジュート素材のマイバッグは丈夫で、デザインも豊富でお気に入り。▼スーパーマーケットに並ぶビールの種類の多さには驚く。

伊藤雅恵 / Ito Masae
企画コーディネーターや通訳として世界中を訪問。2008年にニュージーランドにルーツを持つパートナーと結婚。2023年に永住権を獲得。現在はワイヘキ島にセルフビルドで家を建築中!



Sweden

ストックホルム



▼アートは社会で果たすべき重要な役割を持っているので、誰もが利用できるべきであるという信念を持つスウェーデン。▼美しいグラフィックが施されたミニ図書館が街中に置かれ、誰でも自由に借りられる。読まなくなった本を入れることもできる。▼自然に包まれ時間を大切にするため、街のどこのお店にもグリーンが響かれています。

日常に溶け込むパブリックアートとサステナビリティ

ストックホルム滞在中、「街の地下には90か所かかくの美術館があるんだよ」と連れて来られたのは、地下鉄の駅。でもそこは、まるで青い洞窟。駅構内の天井から壁、床に至るまで描かれた独創的なアートにびっくり! 駅ごとにテーマを設け、さまざまなアーティストが装飾を手がけているんだそう。駅ごとに違うって言うんだから、移動が楽しくなってしまいます。もうひとつ、ストックホルムでは、地上を走るバスや電車(一部の地下鉄も)など、すべての公共交通は100%再生可能エネルギーで走っていると聞いて驚きました。誰もが平等に使える公共の場が、人びとの日常をより豊かなものになっています。

内田かな / Uchida Kana
飲食店立ち上げや起業サポートなど、旅をしながら出会った人との縁で生業をつくる。スペイン語学習やヨーロッパ周遊の旅など、これまでの渡航国数は50か国以上。

SUPPORT

PBV

ピースボート
災害支援センター



人こそが人を支援できるということ

国内外の被災地でネットワークを活かした災害支援やボランティア派遣、防災・減災への取り組みを行っています。



1 IN THE WORLD

海外では24か国以上で災害支援を実施。世界各地で自然災害が増加しており、持続可能な開発の大きな障害になっています。災害に対する脆弱性を減らし、被害を軽減していくことは国際社会の重要な課題の一つです。



2 IN JAPAN

国内では65を越える地域で災害支援に携わっています。10年間(1999-2008)で、1805の市区町村が水害・土砂災害の被害を受けており、担い手が少なく人とのつながりが弱い地域が、より深刻な影響を受けています。



誰しもが、自然災害に遭遇する可能性がある中で、国や地域を越えてすべての人びとが互いに助け合える社会をつくる。1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに、大地震(台湾、トルコ、バキスタン、東日本)やハリケーン被害(米国)、津波被害(フィリピン)の支援など国際ネットワークを活かし、国内外で災害支援を展開しています。どのような災害も、一人では、家族だけでは、そして地域だけでは、対応が難しいことがあります。多様な組織やボランティアと連携して被災地の支援を実現し、災害に備えるために、防災・減災教育やボランティア育成、ネットワークづくりに取り組んでいます。自分を守り、大切な人も守る。そして少し遠くの「あの国」を支える。「お互いさま」の環が広がるように、一綿に動くための方法を提案します。

いま、あなたができること



備える・学ぶ



寄付する



参加する

PBVの活動は、皆さまのご寄付や助成金によって運営されています。また災害ボランティアに参加する上で必要な基礎知識や心構えが学べる入門講座は、どなたでも参加できます。

website: www.pbv.or.jp



2023年6月8日、世界貿易センター（WTC）ビルの一隅にDragonさんの新たな壁面が誕生した。「OUROBOROS（のろく蛇）」は、Dragonさんが軸としているテーマ「描き始めると、すでに流行く人が足を止め、感嘆の声をかけていく、いつもの美しい空間で気さくに客入では、まだまっさらな壁に向かっていく姿が印象的だった。



自信だけはあったんです（笑）。

ただ、クラブやライブハウスに出入りしているうちに、イベントのフライヤー制作に携わるようになったんです。そして次はアーティストからCDのジャケット制作を依頼されたりもするようになったんです。まあ、全然お金にはなってなかったですけどね（笑）。専門を卒業する前は「この世界でやっつけよう」と思っていました。漠然とした不安がなかったとはいえ嘘になりますが、なぜか自信だけはあったんです（笑）。

その後、中学生ぐらいから影響を受けたのが、アメリカのカルチャーでした。ヒップホップだったり、パンクだったり。音楽が入口だったんですけど、気づけばCDジャケットやスケートブランドのTシャツのグラフィックに目を奪われるようになって。それで大阪にある美術系の専門学校に行くことになりました。正直なところ、その頃はまだアーティストになるなんて気持ちはなかったです。

この拳とか「ガンダム」とか。このへんですかね。最初に影響を受けたのは、その後は「キン肉マン」だったり「ドラゴンボール」、あと「ターミネーター」もかなりハマりました。そのあたりを単に真似して描いたり、その漫画に出てきそうなキャラを想像して描いたりするような子も時代でした。まあクラスにひとりはいそうなキャラですよ。

北

斗の拳とか「ガンダム」とか。



あなたが“旅”する理由

FACE THE WORLD
PEACEFUL DAYS
File - 01

メディアでも話題の
人気アーティスト！

FACE THE WORLD
PEACEFUL DAYS
File - 01

Dragon76 × Artist

さまざまな文化を融合させ
過去と未来を見据えた
誰も見たことがない世界を描く

学生時代、強く影響を受けたアメリカンポップカルチャー。

いつしか「絵を描きながら生きていけたら」と

ほんやりと思うようになって、

常に心の中心にあったのは「ニューヨークで描く」という夢だった。

ロールモデルのない人生を駆け抜けるアーティストの軌跡とは。

photo:Sebastian Vergne text:Togo Hideyuki

This is my life!



絵

の世界に進む決心をしたなら、ニューヨークに行くのは外せなかったです。以前から、強烈に憧れていた街だったので、映画で観てきた街で、なにより音楽シーンをリードしている街でしたから。アメリカンカルチャーにふれるには最高の街だと思っていました。

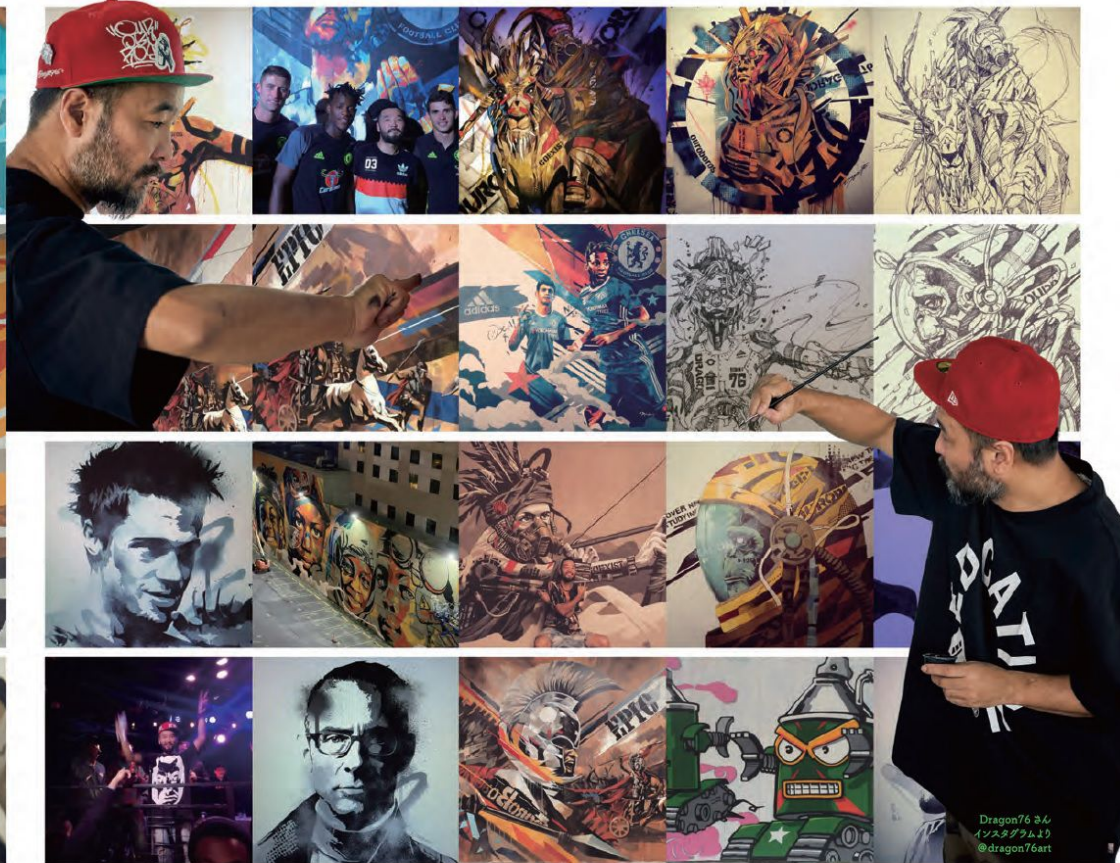
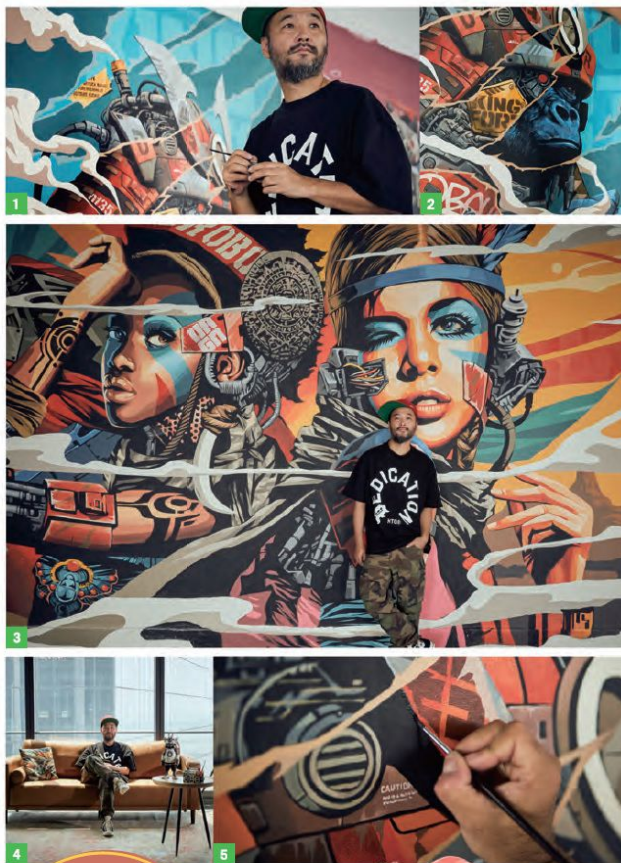
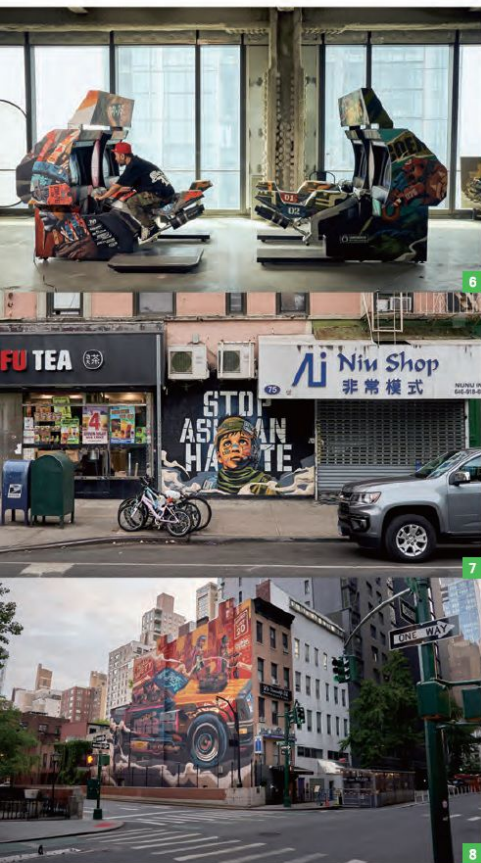
当時、自分史上最高にかっこいいと思っていた絵を何百枚も印刷して、ニューヨークのあちこちで配ってました。『依頼を希望する場合はこちらへ』って。電話番号とメールアドレスを載せて。ただ、現実残酷でした。結局1件も反応がなかったんです。でも不思議と掛けることはなく、いつか絶対にこの街で成功してやるんだ!みたいな気持ちでした。

ニューヨーク訪問の前は、イペント中に絵を描く「ライブペインティング」を毎週、日本全国で続けていました。そんな感覚の生活を続けていたら、突然1通のメールが届いたんです。イギリスのエンジニアから。怪しき満点でしたが、担当が日本人で、一回一緒に仕事してみようかという話になりロンドンに行きました。そこから日本だけでなく、海外でも絵を描くようになっていきました。仕事が軌道にのっていったんですが、ふと思っただんです。気づけば40歳手前。ニューヨークで再チャレンジするならラストチャンスじゃないかって。

何も保証されていませんでしたが、意を決してニューヨークに移住しました。「貯金が尽きるのが先か、仕事が軌道にのるのが先か」って感じ。ただ1年目に感じたのが「意外となんて

かなるかも」ってことでした。英語が話せないことを勝手にハンデと考えていたんですが、スキルさえあれば認めてもらえるんです。ニューヨークの主流はウォールアート。壁面ですね。ビルなどの建物の壁に描くものです。あちこち「描かせてください!」って売られ込みに行つてOKもらえたり断られたり。描いたとしても、そこに暮らす市民からのリスペクトを得られなければ、すぐに他の誰かに書きさねちゃうみたいな。けっこうシビアな世界です。とにかく名前を売るのに必死で、いくつもの壁に描きました。転機となったのは、世界最大級のアートフェア「アート・バーゼル・マイアミ」で描いたことです。インスタで一気に名前が広がったんです。その後は、コロナ禍でアジア人への差別問題が浮き彫りになったので、ストップ・ヘイトをテーマにして壁面を描いたり、国連の依頼でSDGsの飢餓をテーマに縦18m、横76mという自分史上最大の壁面を描いたり。そんな感じで、今に至っています。

世界を旅してだった、ニューヨークに暮らして思うことは「ネットに書いてあっただけ」として話すのと、「現地の人が言っていたんだけど!」だとかやっぱり全然違うということです。SNSを見れば現地に行った気になれちゃいますが、少しでも興味があんなら、僕は絶対に現地に行くべきだと思います。その点ビースポットは、飛行機だと一瞬で変わってしまう文化が、徐々に変化していく文化のグラデーションっていうのがある。そういったものを実感できるのが、でかいと思うんですよ。



Dragon76 ドラゴン 76
アーティスト

1976年、滋賀県生まれ。
ストリートアートを基本とし情熱的で生命力溢れるタッチで見る者の魂にふれるような作品を描く。そのスタイルは常に進化し、過去と未来や、静と動、正義と悪など、相反するものの共存をテーマに作品を生み出している。また、即興で繰り広げられるダイナミックなライブペインティングは世界中からのオファームも絶えず多くの観客を魅了する。2015年に日本で開催された世界的なストリートアートフェス「POW! WOW! JAPAN」への参加をきっかけに、世界中のストリートアーティストに名が広がる。2016年からは拠点をニューヨークに移し活動中。2018年、USチャンピオンシップで優勝、金メダルを獲得。

旅は好き。
肌で感じた経験や思い出は、
自分が今いる場所と地続きに
“世界”があることを
感じさせてくれる。

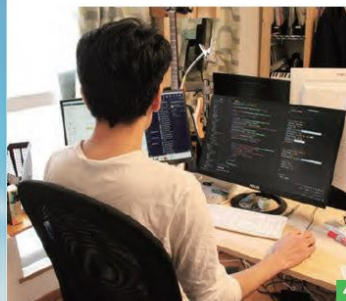


はじめてのニューヨークで味わった 残酷な現実。

でも不思議と掛けることはなく
「いつか絶対にこの街で成功してやるんだ!」
みたいな気持ちでした

(左ページ) 1~6: ワールドトレードセンターの78階のワンフロアにあるDragonさんのアトリエ。ニューヨークの街並みを見渡すこの場所を拠点に、世界のさまざまな場所へメッセージを発信している。7:BLMムーブメントの後、世界中で起きているアジア人へのヘイトクライムに対して発信したメッセージ。SNSでも話題に/ニューヨーク・ローワーイースト。8:「Road Safety(道路の安全)」と題された約480平方メートルの作品。国連が掲げる2030年までに世界で起きる交通事故を半分にするという目的のための壁画で、国連からの依頼で描いた。運転手と歩行者にとって、安全なものである近未来の道路をイメージしている/ニューヨーク・ミッドタウン

6 「上京したときは、スクランブル交差点で実在するんだ」と感激しましたね。日本でもバングラデシュでも田舎にいましたから」と笑う。撮影時、子ども連れでカメラがうまく構えられない外国人観光客に助け、すすんでその家族の手助けをする姿は、彼女の生き方そのものに思えた。



あなたが“旅”する理由

PEACEFUL DAYS



渡部 カンコロンゴ 清花 × Founder of WELgee

「所属」できる場所が
地球上のどこかにあれば



子どもの頃から、“当たり前”のことに取り組むのが苦手だった。
窮屈で、外の世界を知りたいと願った。学生時代は、マイノリティと呼ばれる人に多く出会い、
バングラデシュでは紛争地の実態に衝撃を受け……。
そして、いつしか、大きなセーフティーでは救えない人たちが輝ける、
そんな居場所を作りたいと思うように。道はまだ半ば。前進あるのみ!

1: サポート企業が無償提供してくれた WELgee のシェアオフィス。 2: WELgee がまだ任意団体だった時代、「1日に10人へ自身の活動の伝える」と決め、

ソーシャルベンチャーのイベントなどで紹介をさせてもらった。

3: 2022年の「世界難民の日」に、ウクライナ避難民に向けデジタルスキルワークショップを開催。

4: 2018年、WELgeeの支援で就労を果たした「第1号」のアフガニスタンのハザラ族の避難民。日本でゼロからプログラミングを学び、現在は会社の中核を担うエンジニアとして活躍している。

5: ウクライナでITコンサルタントとして活躍していた、ウクライナの避難民。キャリアコーディネーターを通じて面談を重ねている。

photos: WELgee(No.1-No.5, No.7-No.13)/Ueno Takafumi(No.6) text: Tanaka Aki



「変わらなきゃ」という思いが苦しかった

旅は楽しかったけど、苦しいこともありました。感情がパンクしそうになって部屋にひきこもっていたときは、同部屋の子たちが話を聞いてくれました。日常を

小 高校時代、学校に行けたり、行けなかったりを繰り返して、いた私は、いつも悶々とした日々を過ごしていました。友達や先生との関係は良好で、勉強もやればできたけど、100点が取れないと感じるとテストは受けなかったり。今思うと、完璧主義で極端。「みんなが当たり前にできることができない自分」をずっと責めていました。消去法で短大へ進み「毎日学校へ行くこと」を目標にしたけど、結局1か月しか通えませんでした。この頃には親からも静観されている状態。こんな自分ではだめだ、変わらななきゃ。苦しい思いのなか、海外へ行けばなにか変わるかもと、ネットで「海外・不登校」とキーワード検索して、地球一周の船旅に出会いました。ボランティアスタッフに登録をして、割引を貯めることにしたけど、ここでも行けなかったり、行けなかったり。なにかしなきゃの一心で、次に出発する船旅に飛び乗りました。

「せっかく行くなら得られるものは全部得たい」とそう意気込んで、オプショナルツアーはほとんど交流コースを選びました。南アフリカにあるソウェト（旧黒人居住区）は、映画で学んだアパルトヘイト時代のイメージがあったからモノクロの世界観を想像していました。でも実際訪れると、街もカラフルで、それでもあの時代の分断や差別の名残もあって、世界の不条理と歴史に驚かされる今を感じました。



あなたが“旅”する理由

Find PEACEFUL DAYS



渡邊さゆり × Cruise Staff

回り道ばかりの私が出会った“いろいろ”な人生

「不登校」でつまづき、自分をすり減らしていた学生時代。多様な人びとと出会う中で、正解のない人生を“自分なりに生きていく”ことを見いだしました。



1: かつて変わるきっかけを求めて通ったピースボートボランティアセンターは、今も変わらずたくさんの方で賑わっている。
2-5: 近代的な大型住宅からトタンの囲った小屋まで様々な住宅が並ぶ南ア・ソウェト。ドキドキしている私を、各地の人びとが優しく迎え入れてくれた。大人も子どもも、笑顔が印象的だった。



photo: Social Good Photography, Inc.(No.1), Yoshida Yusaku(No.2-No.5), Find yourself Editorial Department
text: Find yourself Editorial Department

夜のパン屋さん、パンを焼かないパン屋です。



雇を増やす。

パンのフードロスを減らして、

夜のパン屋さん

街で職人が大切に焼いたパン。でも、営業時間内で売れきれずにロスになってしまう時には、夜のパン屋さんがお預かりして代理販売をしています。

頼めてくれたパン屋にとっては小さな収入となり、夜のパン屋さんではスタッフの雇用が生まれます。

夜のパン屋さんで働くスタッフは、経済危機で生活困難に陥った方や居場所のなさを抱えた方などバググラウンドはさまざまです。

人びとの歸りかくなまえ合いの場所として、今夜も夜のパン屋さんには明かりが灯り、美味しいパンが店先に並びます。



yorupan2020



正解も不正解もない、新しい感覚。

共有する部屋だから、繕うことも逃げも隠れもできなくて(笑)。ありのままの私を見守ってくれて、安心することができました。

ある日一晩中寝られなくて、明け方にお茶を飲みに行ったことがあったんです。周囲では年配の方たちが太極拳をしていて、若者は私ひとり。そこで初対面のおじいさんに「考えすぎて寝れなくて」と打ち明けたら、「私だって悩むことはあるよ。その歳で世界一周できるのがうらやましいよ」と言われて。その言葉がずっと入ってきたんです。これまで私の周りの大人といえは、両親が学校の先生。いろんな意見を言ってくれたけど、誰の意見を立てればいいのか、何が正解かわからなかった。でも旅を通じてたくさんの大人と出会って、そこにはいろんな人生があって、正解も不正解もないんだってわかって。新しい感覚でした。

旅が終わったあとも相変わらず家にいた私は、ついに実家を追い出されてしまいました。そこで旅館で住み込みのバイトをはじめ、半年くらい経ったときに、一緒に船に乗った人から手紙をもらい、

それがきっかけでピースボートのスタッフとして働くようになりました。それから7年。当初は職場に通えない日々もあり、一筋縄ではいかないこともあったけど、今の仕事は大好きで、すこやかに感じています。

乗船前、あるスタッフに「船で自分を变えたい」と打ち明けたら、「变わんないよ」と言われ戸惑いました。でも同時に言われた「船の中にはいろんな種がある、それが将来につながるいくんだ」という言葉の意味が、今ならわかるんです。あの頃、生きる意味を探していた自分のことを、信じてくれて、応援してくれる周りの人たちの声や気持ちが、私を支えてくれています。



渡邊さゆり WATANABE Sayuri

1995年、東京生まれ。小5から不登校。『変わらないといけない』の一心で、2014年11月出航のピースボート地球一周の船旅に参加。帰国後ピースボートスタッフに。現在は、全国で開催中の船旅説明会担当として、日本各地を飛び回る日々を送っている。

上：インド洋と大西洋、2つの大海が出会う南ア・喜望峰。日本から遠く離れた場所まで来た、という達成感が押し寄せた。中：インド洋の島国・モーリシャスではインド系の方の民族衣装「サリー」と日本の浴衣の着付け交換をして文化交流を楽しんだ。下：小学校の訪問をしたマダガスカル。校内見学するときからお別れのときまで、子どもたちが手を繋いでくれた。





Dear My Planet

旅を愛し、地球の美しさを伝えてくれる人たち。



Cape Roca【ロカ岬】

美しい一瞬に出会う

それは旅に出るのに

十分な動機だ

*That one beautiful moment is
enough reason to travel*

『ここに地終わり海始まる』

ポルトガルのロカ岬、ユーラシア大陸最西端にある十字架の石碑にこの言葉が刻まれている。

大学生の時に、宮本雄の小説のタイトルとしてこの言葉と出会った。太平洋から昇る日の出には馴染みがある。いつか大西洋に沈む夕陽を撮りたい、という気持ちが芽生えた。

二十九歳の時、私がロカ岬に行きたい、という想いだけで新婚旅行の行き先をポルトガルにさせてもらった。リスボンから電車とバスを乗り継いでロカ岬へ。昼前に着き、日没まで六時間。唯一ある食堂でフィッシュバーガーを食べ、ユーラシア大陸最西端到着証明書を購入。憧れた地の果てでゆっくりと過ごした。何十億人もいるユーラシア大陸の中で、自分が今一番西の端っこで写真を撮っている、と思うと楽しくなった。

自分の目で見たい、撮りたい。その衝動が私を旅へと向かわせる。

写真家 谷口巧

1975 年京都市生まれ。

立命館大学卒業。

松濤スタジオ勤務、アシスタントを経て独立。

写真集「東京ブルー」(画報書屋)、写真集「東京タワーズ」を上梓。

人物ポートレート、風景を中心に広告、雑誌等で活動中。

<https://www.takumitaniguchi.com>

My Favorite Place

イースター島〈チリ〉

Easter Island : Rapa Nui

Travelers are drawn to an island that holds many mysteries.

写真・PEACE BOAT 文・多賀秀行



絶海の孤島に到着した。ここから最も近い人が住む島までの距離は、およそ2,000km。南太平洋にはつんと浮かぶこの島の名前は、イースター島。未だ解き明かされていない多くの謎に満ちた石像・モアイが代名詞の島だ。季節は夏。暑いといえば暑い、島の周囲に流れる寒流の影響で爽やかな風が身体を包んでくれる。

荷解きもそこそこ、車であれば一周3時間ほどでぐるりと回れる島めぐりへと出発する。まずは島東部のアフ・トンガリキを訪れた。目に飛び込んできたのは、アフ(祭壇)の上に整然と並んだ15体のモアイ。島内最大のモアイとブカオ(帽子)を被ったモアイが一際目立つ存在だ。しかし、大きさが違う理由も、帽子を被る理由も未だ真実は分からない。それに当時は霊力(マナ)を宿らせるためにモアイに「目」を入れていたとも言われている。当時の姿はどうだったのか?と、歴史を想像するのが面白い。

モアイ観光のハイライトのひとつがモアイ工場のラノ・ラクダ。岩山から切り出す途中のモアイ、運搬中のモアイなど、さまざま

なモアイを目に焼き付け、シャッターを切る。往時の人びとの手作業を思うと、驚嘆する他ない。この旅で最も心が洗われたのが、島南部の岬からの風景だった。ここは、かつて行われていた鳥人伝説(沖合に浮かぶ小島から一番早く島の卵を持ち帰った者が島の首長になるもの)の舞台。伝説ももちろん興味深いのだが、なにより地平線まで続く群青色の海の美しさに時間が経つのも忘れて見入ってしまった。

お昼時には、海沿いのレストランへ。セビーチェをまずいただく。これがとにかく旨い。爽やかな酸味が島の気候に抜群に合う。同じ名物料理のひとつ、エンパナーダももちろんいいたい。この島に暮らす人びとの先祖は、遙か昔タヒチから船でやってきた。海図も羅針盤もない時代。夜空に浮かぶ星の輝きを目印にする、星の航海術(スターナビゲーション)を用いて辿り着いたのだろうか。その行動力には、脱帽せざるを得ない。現在、私は命を賭すことなく、次の旅先へと行ける。

さあ次はどこにいくのか。まだまだ旅は終わらない。

名物料理セビーチェ



南米でおなじみの魚介料理。ゴロゴロと入った赤身魚と玉ねぎやトマトなどの野菜をレモン汁でマリネにしたもの。お好みで、塩とオリーブオイルを少々かけるのもよい。鮮度バツグンの魚介が堪能できるイースター島のセビーチェは格別のおいしさだ。

アフ・トンガリキ



「イースター島にきた」と実感する場所のひとつ。しかし以前は、部族間の争いですべてのモアイが倒されていた。その様子を日本のテレビが紹介したところ、日本のクレーン会社が名乗りをあげて復元し、現在の光景になった歴史をもつ。



ピースボートクルーズでは、イースター島上陸の際はオプションツアーへの参加が必須のため、記事掲載内容のすべてを見学できない場合があります。

エッセイ大賞 募集テーマ
「旅と平和」
旅の先にある未来へ
うろを離れて、旅をする。するとその旅路に、あなただけが見たストーリーが生まれます。多くのことはスマホでカンタンに見られる時代。あらゆるモノや情報があふれ、手に入るけど、旅をして、その土地を感じ、人と出会うことで感じた「感情」は唯一無二だ。その「旅」もかかっていない。あなただけのもの。その発見と驚きが原体験となり、世界はひろがっていきます。
でも、だれもが旅を楽しみ、美しい風景や生活にふれることができず、平和という前提があつてこそ。あなただけの「旅」の体験と、そこから得た「平和」への想いをお待ちしています。
詳しくは「旅と平和」エッセイ大賞で検索



PEACE BOAT

大賞副賞 地球一周船旅乗船券 主催：NGOピースボート 提供：株式会社シャバングレイス

1

Good point of PEACE BOAT
ピースボートは、
発見できる

たくさんの国々を訪れることができるのが、世界一周の醍醐味。ヨーロッパも南太平洋の島々も、南北アメリカ大陸も一度のクルーズで訪れることができます。今まで聞いたことがなかった名前の国だけど、行ってみたら素敵なお場所だったなんてラッキーな経験も。「また行きたい国」を発見できる楽しみがあるのも船旅ならではの魅力。



4

Good point of PEACE BOAT
ピースボートでは、
チャンス!

仕事や学校が忙しく、自由な時間が持てず、新しいことに挑戦できなかったりするのはいまの若者のリアル。船では旅の自由な時間の中で、環境・文化・教育など世界各国の第一線で活躍している専門家のレクチャーや、英会話・ダンス・絵画などのさまざまなカルチャースクールに参加するなど、新たなことに挑戦するきっかけがたくさん!



6

Good point of PEACE BOAT
ピースボートは、
ダイバーシティ

ピースボートの船旅には、1歳の子どもを連れて参加する家族や10代・20代、シニア世代では90歳を超える方まで、幅広い世代が全国から乗船しています。海外からの参加者も多く、さまざまな文化圏、バックグラウンドを持つ人びとの人生が交差する場所です。多様な価値観を認め合い、ともに旅をする隣人・友人として過ごします。



2

Good point of PEACE BOAT
ピースボートは、
ひとりでも安心

ひとりでも大きなバックパックを背負って、移動していくのはトラブルが心配...と躊躇をしている人も、船旅なら大きな荷物は船に置きっぱなしでOK。国についたら自分の船室から必要なものだけ持って出かけるだけ! 入出国手続きも旅行会社が一括で行ってくれるので、長い列に並んでの手続きや審査が少ないのもうれしいポイント。



3

Good point of PEACE BOAT
ピースボートは、
リーズナブル

クルーズ代金には、全日程分の各国への移動費、食事や宿泊費、船内で行われるイベントの代金(一部有料あり)などがすべて含まれています。各寄港地でも「オプションツアー(有料)」を選択すれば、わざわざ現地でタクシーと交渉する手間もはぶけて、その土地の世界遺産や魅力的なスポットを余すことなく訪れることができます。



5

Good point of PEACE BOAT
ピースボートでは、
リフレッシュ

思い切って住み慣れた日本を離れてみると、異文化とのふれあいで疲れた心がリフレッシュされたり、「旅」という普段の生活とは別の時間軸を生きてみることで、いつもとちがう自分に会えたりするのも魅力です。世界の広さを体感し、新たな視点を多く得たことで「自分の人生を真剣に考えるようになった」なんて声もよく耳にします。



8

Good point of PEACE BOAT
ピースボートは、
サステナブル

地球誕生46億年の中でつくられた大自然が魅せる景色。いつも船が来るのを温かく迎えてくれる人びと、そして私たちをつなぐ美しい海。旅行によってかけがえのない現地環境や文化を消費することがないように、旅行者が多様性を理解し訪れることで、よりよい未来への架け橋となる存在と捉え、責任ある観光に取り組んでいます。



旅をもっと、おもしろく

What's Peace Boat?

ピースボートってどんな旅?

Point

1-8

ピースボートクルーズでは、多くの出会いの中で現地の人たちとともに考え、相互理解を深めていく、その「つながり」を大切にしています。船で各地を旅する私たちだけでなく、そこで待つ現地の人たちにとっても、世界を旅する私たちとの出会いは驚きと発見があることでしょう。



世界各地に顔の見えるつながりをつくるピースボートの旅

世界とつなげる、世界とつながる

これまでに100回を超えるクルーズを実施し、アジア・オセアニア・南太平洋など世界200を超える港を訪問してきたピースボートクルーズの1回目の航海は1983年。長年のクルーズ運営の経験から、誰もが1度は行ってみたいと思うような、世界遺産や大自然との出会い、また、その地域に暮らす人びとと皆さんが、直接顔の見える交流ができる旅をつくり続けています。これまでにのべ8万人が乗船し、世界一周の夢を実現してきました。さまざまな方が乗船しているピース

ボートクルーズには、世代や国籍を越えた新たな出会いが待っています。そして、世界を訪れる私たちとの出会いは、現地で待つ人にとっても発見や驚きとなり、船旅を通じて国と国との利害関係を越えた人びとのつながりとなっています。



旅の舞台は、世界をめぐる大型客船

100日以上の世界一周の旅で、家の代わりとなる「船」。ストレスを感じさせない旅の工夫が施された日本仕様の船で大海原へと出発します。



ルイス ロビン敬
(るいす ろびん たかし)

世界銀行や UNDP (国連開発計画) の
コンサルタントなど、これまでに 20 か国
以上の国際機関、社会的企業などで活動。
日本初の無料給水プラットフォーム
「my mizu」の共同創設者。

どんなことも、
“Be serious” ではなく
“Be fun, be creative” を
大事にしたい。(ロビン)

市塚 その間に、一般社団法人も作ったんですよね。
ロビン そうです。自分でも何かをスタートさせて、プロジェクトのひとつとして、福島県相馬市から青森県八戸市までの道をつなぐ、みちのく潮風トレイルをひとりで行くことを始めました。その道で出会った人から聞いた震災の話や地域の話を、文章にしてネットで発信したところ、海外のメディアでたくさん取り上げていただいた。さらに世界銀行の方の目にも止まったことが縁で、今度は世界銀行で働くことになったんです。日本の防災の知識や技術を、主に途上国にシェアする事業に関わりました。予想もしない展

市塚 次々とトライしていて、すごい！
ロビン 僕は16歳ぐらいの頃からずっと社会貢献に興味をもっていたので、それが今実現できていてとても嬉しいです。そのきっかけは、まさにピースボート。ピースボートのボランティアに携わって以降は、何か機会をいただきたに「イエス」と言って進んできました。だから、今の僕がある。これかも、こんなことも Be fun, be creative ではなく Be fun, be creative を大事にして、ポジティブに活動していきたいです！

会に感謝する時間をもちます。最高の日々を過ごせたので、通訳ボランティアの期間が終わったあとは、この先どうしようかと悩みました。そうしたら、ピースボートの災害支援の団体から連絡をいただいて、ニューヨークで起きたハリケーン・サンディの現地にボランティアスタッフとして行くことになったんです。そこで4か月間活動したあとは、ネパールやモザンビーク、パナマなど5年ほど国際開発に携わりました。

市塚 現在、力を入れている事業は何ですか？
ロビン ひどくめは、給水アプリ「my mizu」です。「ボトルを持参すれば無料で給水できるスポット」とユーザーをつなぐアプリで、ペットボトルの消費量の削減と、環境問題に関わる人を増やすことをミッションにしています。それから、教育事業にも取り組んでいます。今後は、社会起業家やソーシャルアクティビストを育てる学校を作りたいと思っています。



INTERVIEW



「チャンスを楽しむ」を大切に
ルイスロビン敬
一般社団法人 Social Innovation Japan 代表理事

語学ができると世界はもっと身近になる。
コミュニケーションの幅が広がる先に、見つかるもの。

ルイスロビン敬さんは、2012年に地球一周の船旅に通訳ボランティアとして参加。この経験きっかけに、次々と新しいことに挑戦し、現在は社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。当時、通訳ボランティアの責任者としてロビンさんと一緒に乗船した、ピースボート国際部の市塚慶子がお届けします！

市塚 ロビンは、2012年夏の地球一周の船旅に通訳ボランティアで参加してくれましたね。

ロビン はい。もともとは、2011年3月にピースボートの災害支援に興味をもったんです。イギリスの大学を卒業する時期に東日本大震災が起きて、祖父が宮城県仙台市に住んでいたこともあったので、東北の人たちの役に立ちたいと思いました。それでインターネットで調べたところ、ピースボートでボランティアを募集している情報を得て、石巻市で支援のお手伝いを始めたんです。そうしたら、ピースボートには実はクルーズがあつて、船旅で通訳ボランティアを求めていると聞いて、すぐに、チャレンジしよう！と決めました。

市塚 その後、面接を受けて採用された、と。
ロビン そうです。まずは日本の外資系企業で1年間働いて、日本語のスキルを上げてから面接に挑みました。ただ、筆記試験が難しくて……。これは落ちたなと思ったのですが、奇跡的に合格した（笑）。通訳ボランティアを務めた3か月は、刺激だらけでしたね。若い人から年輩の方までさまざまな人と交流して、寄港地では各地の様子を見聞きして、そのたびに意欲的な気持ちになりました。

市塚 船のなかでの生活はどうでしたか？
ロビン 今の時代は、普通に暮らしているのと、携帯電話にメールの通知が頻りに届いたりして気持ちのなかなかなかったですよね。でも、船上ではそういうことがなく、景色や出

Global English Training

船と寄港地で「学んで使う」を繰り返すことで、
語学力はアップします！



市塚慶子
ピースボートクルーズ
における通訳ボラン
ティアの責任者として、
年間大勢のボラン
ティアを世界へと送り
出している。

ピースボートクルーズには、世界一周の船旅をしながら英語が学べる語学レッスン『GET (Global English Training)』があります。このレッスンは、まさに「グローバル・イングリッシュ」にふれられる機会。プログラムには有料と無料があり、有料の場合はレベル別・少人数制でのレッスンが受けられます。オリジナルテキストを使用し、わからないことはその場で質問できるので安心です。

世界の多様な文化を題材にしたレッスンで、異文化への理解も向上！地球全体がキャンパスという、新しい語学留学スタイルです。

英語の勉強をする際、「ネイティブスピーカーのようにしゃべれるようになりたい」と思う人は多いかもしれませんが、世界には、ネイティブスピーカーの人口をはるかに越える人たちが日々英語を使って生活しています。つまり、各地域で使われる英語にはそれぞれ独特の特徴があるのです。これらの多様な英語のことを、ピースボートでは「グローバル・イングリッシュ」と呼んでいます。英会話力に自信をもてない人は、まず柔軟な発想をもって「グローバル・イングリッシュ」を身につけるといいのではないのでしょうか。

Around the Globe × Language Study





藤井つむぎ
FUJII Tsumugi

First Voyage - 18 (age)

↓
Navigator

好きをとことん、
つらぬく。

船がつなぐ、私の夢

小さい頃から船が好きでした。特に帆船が大好きで、神戸港で帆船を見て「この船を動かしたい」と思ったのが夢の始まり。そこから航海士という夢を追いかけてきました。ピースボートに乗ったのも、旅がしたいというよりも「世界一周をする客船が見られる!」という、周りとはちょっと違う理由でした(笑)
夢だった航海士になり教官として学生に教える立場も経験し、実は少し夢のカタチが変わったんです。「船に乗りながらいろんな人と関わりたい」そんな気持ちで働くようになったのは、ピースボートでのさまざまな出会いがベースになっていると思います。いつかスキルアップして船長になり、自分の手で船を操縦して世界一周する。それが次の夢ですね。

独立行政法人 海技教育機構
<https://www.jmets.ac.jp>

船員養成のための学科教育と練習船による航海訓練を通じて一貫教育を実施し、船で働くプロを育てる日本最大の船員教育機関。全国各地に技術学校がある。

現在は3等航海士として働きながら、実習船で学生への指導もおこなう。大好きな帆船で世界一周するのが目標。



冨木志保
YURUKI Shihō

First Voyage - 21 (age)

↓
Photographer

偶然見つけ、大事に
育てた「得意」なこと。

写真をとおして
人と人が笑顔になれる

世界一周クルーズの思い出を写真に残したいと、一眼レフを買って乗船。その旅の中でプロフォトグラファーの方と出会ったことがフォトグラファーへの第一歩となりました。経験を積みフリーランスとして働く中で、西日本豪雨の災害現場でボランティアの方たちを撮影する機会があり、その経験を写真を通じて社会課題の解決を目指す「ボラ写プロジェクト」へとつながりました。コロナ禍で撮影の仕事がなくなり、それなら自分が起業して同じ思いをもつフォトグラファーたちと協働したいと会社を立ち上げました。災害に限らず、多様な支援に取り組むNPOの活動など、身近なところで社会の役にたてるように写真を通して表現できないか。同じ気持ちの仲間とともに、前に進んでいきたいです。

ソーワルグッド株式会社
<https://socialgoodphotography.jp>

「社会をより良くしようとする人たちの活動」を写真で表現することをテーマに、写真撮影や映像の企画制作を中心に事業を展開している。

一眼で情報を伝える写真には社会を動かす力がある。「私にできること」で継続的な活動を目指している。



原田二郎
HARADA Daljro

First Voyage - 21 (age)

↓
Wedding Planner

世の中の「ふつう」は
「ふつう」なのか?

ずっと探していた、
「自分らしくいられる場所」

もともと環境や食に関心があり、帰国後はオーガニックカフェで働きました。マネージャーも任せられ充実した日々でしたが、自分のセクシャリティのことで壁をつくってしまい思い悩むことも。転機は30歳のとき、初めて職場の仲間達に自分のことを伝える機会があり、それぞれが受け止めてハグしてくれました。以前は自分の人生プランが描けず苦しかったけど、「これが僕なんだ」と思えてからは若い人たちの希望やロールモデルになれたらと「LGBTQの結婚を仕事にしたい」と思うように、コンセプトありきの出発でしたが、修行期間を経てフリーのウェディングプランナーになりました。自分が行動することで社会がより良い方向に回っていく、それが僕にできることだと思っています。

Revolvo(レボルボ)
<https://www.revolvo-wedding.com>

「世の中の「ふつう」は変えていける」をコンセプトに結婚式のプロデュースを行う。社名とロゴには「変化を起こす・ぐるぐる回る」という意味を込めている。

結婚式を「過去と未来をつなぐ通過点」と捉え、LGBTQの人を含む誰もが自分の人生を生きられる社会を目指す。



世界を旅した若者たちの
“Next Step”は山あり谷あり。

だけど、それを楽しめる“コツ”を、
みんなはピースボートで知りました。



Stepへ踏み出しています。



右: イスラム文化と西洋文化が混ざり合い、魅力的な街並みがつくりだされているモロッコ・シャウエン。中: SDGs公式キャンペーン船であるピースボートクルーズだからこのグローバルな学びにあふれた船内。左: グアテマラ・プエルトケツァルの港にあるマーケットでの出会い。美しい織物に話しが広がる。



VARIED OF PLANS

バリエーション豊かなクルーズプラン

クルーズで訪れる全ての寄港地を実際にスタッフが訪れ、旅のプランを企画しています。多彩な航路で、あなたの夢を詰め込んだ世界一周の旅をサポートします。



ピースボートクルーズの出航は、1年に3度。1983年に就航した第1回の船旅から数え、これまでに100回を超えるクルーズを実施してきた経験と、それと共に築いてきた世界中のネットワークをフル活用しながら旅のコーディネートをしています。世界各地、どの土地も、それぞれの魅力にあふれていますが、春・夏・冬とその土地のベストシーズンだからこそ出会えるハイライトを目指して指針を取ります。春出航のクルーズでは、雪解けの陽光きらめく北欧とアラスカへ。夏出航のクルーズでは秋の地中海とオーロラが夜空を彩るアイスランドへ。冬出航のクルーズでは、夏本番の南半球をめぐる。まるで絵本の世界から抜け出たかのような美しい街並みや、人類の叡智が詰まった世界遺産の数々、そして、壮大なスケールで迫り来る大自然——その時期ならではの地球が見せる絶景や人類が刻んできた

た軌跡の数々との出会いは、どれも最高の思い出となることでしょう。ピースボートクルーズならではの出会い、初めて訪れる世界各地にも、あなたの訪れを待っていてくれる現地に暮らす人びとがいるという。顔の見える交流を通して互いの理解を深める体験は、国際社会と私たちの生活の関わりについて、改めて考えるきっかけにもなります。環境先進国の取り組みを現地で学んだり、地雷撤去の現場を視察したり、マングローブの植林やビーチの清掃をしたり、持続可能な未来について考えるさまざまな寄港地プログラムも私たちの船旅の大きな特色です。点と点で存在していた憧れの場所を線で結びながら、通か4万kmの地球をめぐる壮大なこの旅は、地球の大きさを体感する旅でもあります。幾多の出会いと発見があなたの可能性を無限に広げる、100日間の船旅です。

冬出航 Winter Travels

冬の日本を抜け出し、南十字星が瞬く真夏の南半球をめぐる

日本から距離的に遠く、アクセスの方法も限られている南半球の各地を一度にめぐる船旅へ。野生動物が闊歩するサファリや南米大陸の南端に広がるパタゴニアの原風景など、北半球を中心にした旅とは一味異なるクルーズが楽しめます。



夏出航 Summer Travels

地球の織りなす色彩美の世界と、憧れの世界遺産の数々をめぐる

夏出航のクルーズの魅力は、その季節にだけ見ることが出来る色彩美との出会いにあります。紅葉で有名なカナダ東部の「メープル街道」や、北欧アイスランドの夜空を彩るオーロラなど、地球が織りなす芸術ともいえる絶景を訪れます。



春出航 Spring Travels

初夏限定で味わえる、北半球・雪解けの大自然が待っています

春から夏にかけては船旅のベストシーズン。陽光輝く初夏の地中海をめぐる、人気の北欧は全5か国に寄港します。ハイライトとなるのは、悠久の時が削り上げたフィヨルドの景観。そして、ヨーロッパを中心に世界遺産の数々を訪れます。



旅行企画・実施

株式会社ジャパングレイス (観光庁長官登録旅行業 第617号)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13

www.japangrace.com

一般社団法人日本旅行業協会正会員

旅行業公正取引協議会会員



coordinated by

ピースボート 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

TEL: 03-3363-7561 / FAX: 03-3363-7562 www.peaceboat.org

● PHOTO: PEACEBOAT, 内田和裕、横浦崇志、片岡和志、島田麗、千賀健史、中節浩太、中村風樹人、中村克利、松田咲香、水本俊也、法木志保、Barry Winiker, Christina Felschen, David Sacks, Nancy Roberts, Katsuta Airi, Eric Farrelly / Alamy Stock Photo, Adobe Stock, shutterstock.com, Getty Images

世界一周について・ボランティア・割引制度など

LINE@で
直接聞いてみよう!

ピースボート公式LINEから、最新情報をお知らせします! スタッフに直接質問することもできます。



今すぐアクセス!

「ボランティア説明会」を
開催中!

ピースボートの拠点は全国5か所。活動内容やかわり方などを紹介。個別のご質問にお答えする時間もあります。



世界一周がもっとわかる!

「船旅説明会」を開催中!

日本全国の会場にスタッフがお待ち。出発までの準備から、船内生活や寄港地での楽しみ方までご紹介いたします!

